

無職の夫の家事労働時間

平田道憲

(2011年10月6日受理)

Time Spent on Housework by not Working Husbands

Michinori Hirata

Abstract: This paper examines time spent on housework by not working husbands. Analyses in this paper are based on data of 2006 Survey on Time Use and Leisure Activities conducted by Statistics Bureau, Ministry of Public Management, Home Affairs, Posts and Telecommunications, Japan. Housework includes cooking, cleaning, laundry, caring for adults, household chore, child care and shopping. Not working husbands spent more time on housework than employed husbands on weekdays. On Sunday, the amount of time devoted to housework by not working husbands was the same as employed husbands. Not working husbands at the child care period devoted a large amount of time to housework. Not working husbands with employed wives spent more time on housework than those with not working wives. Not working husbands, however, did not replace their wives as the primary person responsible for the housework.

Key words: time use, housework, not working husband

キーワード：生活時間、家事労働時間、無職の夫

1. はじめに

わが国における家族成員の家事労働については、主として夫妻の比較という観点から研究されてきた[伊藤・天野, 1989, 大竹, 1997, 平田, 1998]。その場合、妻は職業の有無によって有職か(フルタイム・パートタイムに再分類される場合もある)無職かに分類されるのがふつうであるのに対して、夫は有職であることを前提とすることがふつうである。これは、基本的には、日本における家庭経営を研究するとき、職業に従事している夫を前提に考えるほうがわかりやすいからである。

国際学会等で、有職妻、無職妻、有職夫の三分類のデータを用いて報告をすると、なぜ無職夫のデータがないのかと質問されることがある。「日本の家族における夫妻の家事労働について分析するとき、無職の夫は高齢者であるか例外的な存在なので分析からはずす」と答えても、かならずしも納得してもらえない。

国際学会等で質問するのは、ほとんどが先進国の研究者であるが、日本以外の先進国では、無職の夫がそれほど例外的な存在ではないのかもしれない。あるいは、ジェンダー統計、つまりジェンダー別に統計がとれる場合はきちんとジェンダー別に統計表を作成すべきである、という考え方に照らして問題があるという指摘であるのかもしれない。

日本で無職の夫の家事労働時間の研究がほとんどないこと背景には、無職の夫の絶対数が少ないため、小規模サンプルの調査では、無職の夫の分析をしたくてもできないという、調査上の制約もあった。そのため、もともと少ない無職の夫の家事労働時間についての研究は、研究されたとしても、職業から引退した高齢者に限られていた。

本研究の目的は、大規模サンプルを用いた指定統計である社会生活基本調査の調査結果を利用して、高齢層だけでなく、若年層、中年層も含む無職の夫の家事労働時間の特徴を明らかにすることである。

2. 研究の方法

(1) 使用したデータ

本論文で使用したデータは、総務省統計局が2006年に実施した社会生活基本調査の調査結果である〔総務省統計局，2008〕。

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分および自由時間等における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることにより、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的としている。1976年の第1回調査以来5年ごとに実施され、2006年調査は、第7回目にあたっている。

調査対象は世帯に属する10歳以上の世帯員であり、二段階確率比例抽出法により、約80,000世帯を抽出して調査し、約20万人の回答を得ている。生活時間については、連続する二日間の記録を収集している。現在のところ、世界最大規模の生活時間の全国調査である。

(2) 家事労働時間

本論文における家事労働時間は、社会生活基本調査の次の4つの行動の時間の合計である。

- 1) 家事(炊事、掃除、洗濯、裁縫・編物、家庭雑事)
- 2) 介護・看護
- 3) 育児
- 4) 買い物

このうち、社会生活基本調査の分類の1)の家事は、本論文で分析する家事労働の一部を構成する行動であり狭義の家事労働であり、本論文のなかでは、「炊事・掃除・洗濯」と表記することにした。

(3) 無職の夫のサンプル数と年齢構成

無職の夫のサンプル数(生活時間記録の数)は、平日9,319人、土曜日7,577人、日曜日7,403人、合計24,299人である。生活時間については、連続する二日間の記録を収集しているのので、実人数は、合計人数の半分である12,000人強である。

有職夫、有職妻、無職妻の合計人数(無職夫の24,299人に当たる人数)を示すと、順に、83,880人、60,712人、49,209人である。

無職の夫の年齢構成は、図1に示すとおりである。65-74歳が43.6%、75歳以上が37.9%で、あわせて81.5%が65歳以上である。無職の夫は高齢者に多いという常識を示しているといえる。65歳未満については、60-64歳が12.1%、50歳代が4.4%、50歳未満は1.9%である。

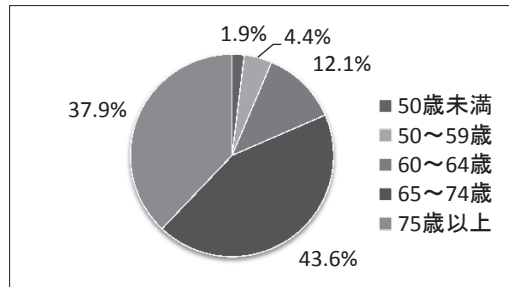


図1 無職の夫の年齢構成 (N=24,299)

3. 無職の夫の家事労働時間

(1) 有職の夫と比較した無職の夫の家事労働時間

はじめに、年齢層にわけない無職の夫全体の家事労働時間を、曜日別に、有職の夫全体の家事労働時間と比較する(図2)。

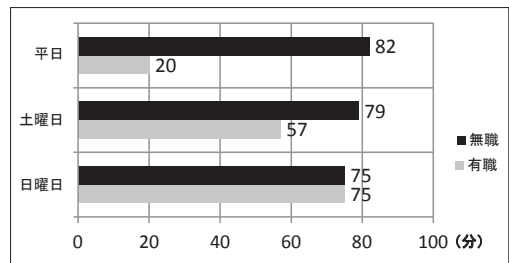


図2 職業の有無別夫の家事労働時間

図2によれば、平日に、無職の夫の家事労働時間は82分、有職の夫の家事労働時間は20分で、無職の夫のほうが62分長い。このことは、むしろ予想どおりの結果である。この差は、土曜日には22分にちぢまり、日曜日にはなくなる。図2について、曜日による違いという視点で有職の夫と無職の夫を比較すると、有職の夫では、平日と土曜日・日曜日の家事労働時間の曜日差が大きいのに対して、無職の夫では、曜日差が小さいことが特徴である。

日本の有職の夫の家事労働時間が国際的にみてきわめて短いことは、生活時間研究においてはよく知られている事実である。日本の無職の夫の家事労働時間は、日本の有職の夫よりは長いけれども、諸外国の有職の夫の家事労働時間よりははまだ短い。

日曜日に、有職の夫と無職の夫の家事労働時間の時間量には差がないものの、その内訳をみると、違いがある(図3)。図3によると、日曜日に、無職の夫では「炊事・掃除・洗濯」の時間が長いのにに対して、有職の夫では育児、買い物の時間が長くなっている。

無職の夫の家事労働時間

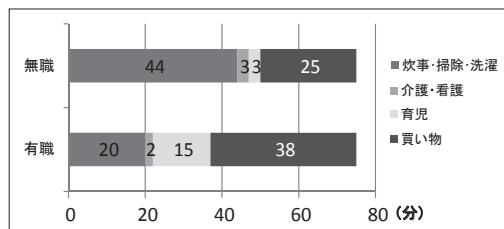


図3 職業の有無別夫の家事労働の内訳（日曜日）

(2) 年齢・ライフステージ別みた無職の夫の家事労働時間

つぎに、無職の夫に焦点をあて、年齢やライフステージによる家事労働時間の相違を分析する。

図4は、こどものいない、あるいは子どもと一緒に住んでいない夫婦のみのライフステージにある無職の夫の家事労働時間を、年齢別みたものである。35-44歳の家事労働時間は38分と短く、45-64歳、65歳以上では80分を超えている。

同じくこどものいない、あるいは子どもと一緒に住んでいない夫婦のみのライフステージにある有職の夫の家事労働時間について比較したのが図5である。有職の夫については、平日ではなく、家事労働時間が相対的に長い日曜日について比較した。有職の夫の日曜日の場合には、無職の夫の平日の場合とは逆に、35-44歳の家事労働時間（78分）のほうが、45-64歳（55分）、65歳以上（56分）の家事労働時間より長くなっている。

表1は、こどものいるライフステージにある無職の夫の平日の家事労働時間を末子の学校段階別に比較したものである。ライフステージとは別に、子育て期のひとり親（いわゆる父子家庭）のデータも示している。表の下半分は、比較のために、同じカテゴリーの有職

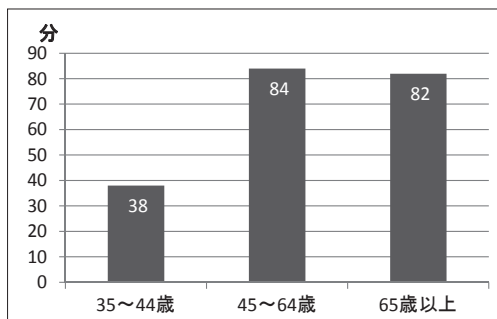


図4 無職の夫の家事労働時間（夫婦のみ、平日）

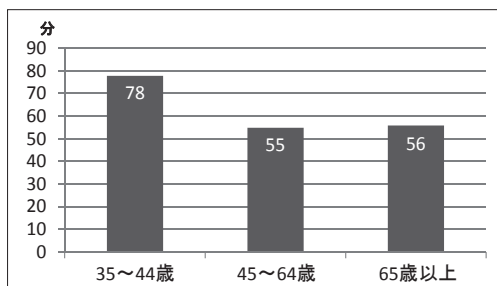


図5 有職の夫の家事労働時間（夫婦のみ、日曜日）

の夫の日曜日の家事労働時間を掲載した。

末子が就学前の無職の夫の家事労働時間は157分、つまり2時間37分であり、そのうち育児時間が75分である。家事労働時間の合計時間（表のいちばん左の欄）は、すべてのカテゴリーで無職の夫のほうが長いわけではないが、「炊事・掃除・洗濯」の時間は無職の夫のほうが長い。逆に、買い物の時間は、有職の夫のほうが長い傾向にある。無職の夫のなかで、とくに子育て期のひとり親の場合、平日の家事労働時間は169分、つまり2時間49分であり、そのうち「炊事・掃除・洗

表1 職業の有無・ライフステージ別夫の家事労働時間（単位：分）

		家事労働時間	うち 炊事・掃除・洗濯	うち育児	うち買い物
無職の夫 平日	末子が就学前	157	45	75	30
	末子が小学生	58	37	14	6
	末子が中学生	43	34	0	9
	末子が高校生	125	81	1	42
	子育て期のひとり親	169	107	16	38
有職の夫 日曜日	末子が就学前	127	18	61	47
	末子が小学生	76	18	12	45
	末子が中学生	63	21	3	37
	末子が高校生	59	21	1	36
	子育て期のひとり親	110	54	11	44

濯」の時間は107分、つまり1時間47分である。

(3) 共働きの視点からみた無職の夫の家事労働時間

最後に、共働きの視点から、無職の夫の家事労働時間を検討したい。表2は、共働きか否か別にみた夫の家事労働時間を、全体と子育て期にわけて示したものである。通常の共働き研究では、夫が有職の二つの行のみを、つまり、無職の夫を除いて分析することは、「はじめに」で述べたとおりである。本論文では、無職の夫を含めて分析する。

表2 共働きか否か別夫の家事労働時間 (単位:分)

	平日	日曜日
全体		
夫が有職で妻も有職(共働き)	19	65
夫が有職で妻が無職	23	89
夫が無職で妻が有職	89	78
夫が無職で妻も無職	80	72
子育て期の夫		
夫が有職で妻も有職(共働き)	20	80
夫が有職で妻が無職	23	110
夫が無職で妻が有職	111	98
夫が無職で妻も無職	86	90

まず、夫が無職の二つの行に注目すると、妻が有職の場合のほうが家事労働時間が長い。しかしながら、子育て期の平日以外では、妻が無職の場合の家事労働時間との差はそれほど大きくない。子育て期の平日では、妻が有職の場合の無職の夫の家事労働時間が111分であるのに対して、妻が無職の場合の無職の夫の家事労働時間は86分である。

表2でもう一つ注目すべきは、日曜日の「夫有職妻無職」の夫の家事労働時間である。もともと、有職の夫だけに注目したとき、妻が無職の夫のほうが妻が有職の夫よりも家事労働時間が長いことが知られていて、共働き研究で不思議な結果とされている[平田, 2007]。本研究では、日曜日において、無職の夫の家事労働時間も、「夫有職妻無職」の夫の家事労働時間より短いことが明らかになった。この事実、全体でみても、子育て期のみでみてもあてはまる。とくに、妻が有職である無職の夫よりも妻が無職である有職の夫の家事労働時間が日曜日に長いことは、上記の共働き研究での不思議な結果とあわせて、その要因について研究することが今後の課題である。

さて、無職の夫以外にもどると、妻が無職の場合より妻が有職の場合のほうが家事労働時間が長いことは明らかになった。それでは、妻が有職の場合、無職の

夫は妻の家事労働を代替して分担しているのであろうか。

表3は、夫が無職で妻が有職の夫と妻の家事労働時間を平日と日曜日について、全体と子育て期にわけて示したものである。これをみると、夫と妻の間にはまだまだ大きな差が残されていることがわかる。とくに、一般的に妻が休日になる日曜日には、妻の家事労働時間が平日よりも増え、それにとまって夫の家事労働時間が短くなっているという事実は、妻が家事労働に従事できる日には夫が家事労働に従事しないことを示している。いずれにせよ、無職の夫が妻の家事労働を代替しているというすがたは、この表からはみえてこない。

表3 夫が無職で妻が有職の夫婦の家事労働時間

(単位:分)

	平日		日曜日	
	夫	妻	夫	妻
全体	89	198	78	253
子育て期	111	214	98	270

4. おわりに

本論文では、生活時間研究においても研究の蓄積が少ない無職の夫に焦点をあてて、その特徴を分析した。とくに、これまでの数少ない無職の夫の生活時間研究が高齢者を対象としたものであるのに対して、本論文では、若年層、中年層も含む無職の夫の家事労働時間の特徴を明らかにした。

無職の夫の家事労働時間は曜日差が少ない。平日には有職の夫より家事労働時間が長いものの、日曜日には有職の夫との差がなくなる。差がない日曜日の家事労働時間の内訳をみると、無職の夫は「炊事・掃除・洗濯」時間が有職の夫より長く、有職の夫は育児・買い物時間が無職の夫より長い。

子どものいない夫婦の場合は、若い年齢層の無職の夫の家事労働時間が短い、子育て期、ひとり親の無職の夫の家事労働時間は長い。

妻が有職である無職の夫のほうが、妻が無職である無職の夫よりも家事労働時間はやや長い。しかしながら、妻の家事労働時間と比較すると大きな差があり、妻の家事労働を代替するには至っていない。

今後、無職の夫の家事労働時間研究を進めていくうえで、さしあたり、次の2点を考慮する必要がある。

第一は、夫の家事労働時間の国際比較の視点である。日本の有職の夫の家事労働時間が国際的に短いことは、生活時間研究で明らかになっている事実であ

る。日本の無職の夫の家事労働時間が有職の夫より長いとはいえ、それでも、平均でみれば、諸外国の有職の夫の家事労働時間よりも短い。少なくとも、職業労働における長時間労働ゆえに家事労働に従事できないという理由は、無職の夫にはない。それにもかかわらず、諸外国の有職の夫より家事労働時間が短いのはなぜなのか。追究するに値する視点である。

第二は、無職の夫の家事労働時間が有職の夫より平均時間の観点からみても短い事例が発見されたことである。日曜日に、無職の夫の家事労働時間は「夫有職妻無職」の夫の家事労働時間より短い。無職の夫の家事労働は、妻が有職の場合、妻の休日である日曜日に短くなる傾向にある。夫が有職の場合、妻が職業に従事しているのだから、妻が無職の夫よりも家事労働に従事するのではないか、という仮説は、これまでの共働き研究では認められていない。無職の夫の家事労働の曜日変動をみると、有職の妻に対する夫の家事労働の支援について、有職の夫だけでなく、無職の夫の場合もかならずしも協力的とはいえ側面があるのではないか。つまり、現在の日本社会において、無職の

夫が家庭の家事労働の責任者である「専業主夫」となるケースはまだ少ないことを示唆しているといえる。この点については、共働き研究、あるいは性別分業の研究を発展させる観点から追究していくことが必要である。

【参考文献】

- 平田道憲, 「生活時間からみた男女共生社会の展望」, 岡本祐子・平田道憲・岩重博文編著, 『人間生活学』, 北大路書房, 1998年
- 平田道憲, 共働き世帯と非共働き世帯の夫妻のワーク時間の時系列変化, 『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部』, 第56号, 2007年, pp.297-302
- 伊藤セツ・天野寛子共編著, 『生活時間と生活様式』, 光生館, 1989年
- 大竹美登利, 『大都市雇用労働者夫妻の生活時間にみる男女平等』, 近代文芸社, 1997年
- 総務省統計局, 『平成18年社会生活基本調査報告』日本統計協会, 2008年